

埼玉県立小鹿野高等学校との包括連携協定を締結

秩父市などの1市4町で構成する「ちちぶ定住自立圏」では、高等学校と連携し地域振興と高校の更なる魅力化に向けて取り組むこととしています。

5月10日に秩父市役所において、小鹿野町と小鹿野高等学校、皆野町と皆野高等学校がそれぞれ包括連携協定を締結しました。

小鹿野高等学校では、既に「竹あかりプロジェクト」など、地域の皆さんも交えて連携した事業を行っていますが、町としましても更に連携を深め、活力ある地域づくりと魅力ある学校づくりを目指していきます。

問合せ ● 小鹿野庁舎・総合政策課 ☎75-1238



秩父圏域立高等学校と1市4町意見交換会の発足及び皆野町と皆野高等学校、小鹿野町と小鹿野高等学校の個別連携協定締結式

こんにちは。町長です。

小松市との交流を通じてまちづくりを学ぶ



令和元年になり1カ月が経過いたしました。令和の元号もやっと慣れ親しんできたところです。役場でも事務関係書類等の改元作業も無事終了することが出来ました。

さて、先月、小鹿野子ども歌舞伎が石川県小松市で開催された第21回日本子ども

歌舞伎まつりin小松に出演いたしました。小鹿野子ども歌舞伎は第1回の公演を含めて今回で5回目の出演となりました。小松市からお招きいただく大きな理由として、小松市のお旅まつりの曳山(山車)の上で演じられる曳山子ども歌舞伎が有名で、小鹿野町も小鹿野春祭りの屋台で子ども歌舞伎が上演されていることから、ご縁が始まりました。また、小松市には歌舞伎演目で有名な「勸進帳」の安宅の関跡もあり「歌舞伎のまち小松」として、まちづくりを進めています。

小松市お旅まつりの説明文によりますと、「小松市は加賀百万石の基礎を築いた、前田家三代利常公が寛永17年(1640年)に小松城に隠居して以来、亡くなるまでの約18年間に、産業を振興し、特に以前からあった絹織物産業に京などから先進的な技術を取り入れ「加賀絹」ブランドを確立し、経済を活性化させるとともに寺や神社を町なかに集めるなど町割りを行い、また、茶道裏千家の創始者・千宗室など多くの文化人を招き芸術文化を充実させるなど様々な施策を行いました。

これにより、産業・商業の中心地として人や物が集まり、経済力をつけた町人は文化面でもリードするようになり、和歌、茶道、能楽、浄瑠璃などをたしなみ、小松のまちに町人文化を華開かせ、やがてお旅まつりの曳山の造営や曳山子ども歌舞伎の上演に至ります。」とございます。

小松市は、皆様もよくご存じの世界的な建設機械メーカー・コマツの発祥地でもあります。やはりこれも先人たちが築き上げたものづくりの精神やDNAが引き継がれて生み出されたものだと思います。

現在、小松市はお祭りや歌舞伎などの伝統文化・芸能の保存充実にも大変力を注がれておりますし、また、教育面でも公立の4年制大学を設置したり、科学の楽しさや魅力を伝える施設を整備して先端的な教育カリキュラムの導入などを進め将来を担う人づくりを進めています。

城下町で発展した小松市と市場町の小鹿野町とでは、歴史的な経緯は違いますが、小鹿野町の行政を進める上で、現在の小松市の取り組みは大変参考になる部分が多いと感じました。特に、歴史と文化を大事にする中で地域産業を振興し、将来を担う人づくり・教育を推進する、これこそ小鹿野町が今取り組むべき喫緊の課題であると存じます。

小鹿野町長 森 真太郎



町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信
～ 事業所訪問 vol.15 ～
「株式会社
アグリカルチャーセンター」
町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。

町長の見て・聞いて・話して

第15回の事業所訪問は、4月17日に株式会社アグリカルチャーセンターを訪問し、石川浩専務取締役にお話を伺いました。

株式会社アグリカルチャーセンターは、昭和61年(1986年)にエノキタケの生産からスタートし、現在はマイタケ、シイタケを加えた3品目を主要商品として、年間約1,400トンの出荷を行う大規模なキノコ栽培工場です。

案内していただいた工場内は、自動化された大規模生産設備でのエノキタケの栽培が行われており、手作業の生産工程では、芽が出たらエノキがまっすぐ伸びるよう専用のシートを巻きつける「紙巻」という作業が素早く手際よく行われていました。エノキタケは日量5,000kgほど生産され、首都圏を中心に大手スーパー、卸業、外食業等で幅広く販売されていました。

生産工程においては、他産地に先駆けエノキタケの自動化ラインを導入し、農業と工業の融合化を進めた関東一の工場であり、さらに農業を一切使用しない「無農業生産



生産工程の説明を受ける森町長

ライン]をいち早く実現するなど、研究・開発に余念のない姿勢が随所に見られました。

全社員58名のうち、社員は若く、新人からベテランまで調和が保たれているのと同時に、高齢者や障害者も積極的に雇用し、働きやすい職場環境作り常に配慮されていました。

同社は、農業分野の“キノコ”の生産を一貫して行い、自然界の食物連鎖の輪を、さらに繋ぐ役割を果たすという使命感の基に、環境・地域・人にやさしい企業であると感じました。

わが社の主力商品

当社の生産するキノコは、全生産量の85%をエノキタケが占めております。エノキタケは杉オガ屑・米糠等を使用し、色白でしっかりと歯ごたえがあります。

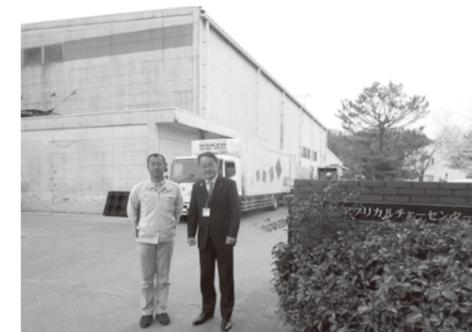
マイタケは広葉樹オガ屑・フスマ・トウモロコシ粕等を使用し、大株で軸が太くて香り・味が強く、歯切れのよい仕上がりがです。国産の原料を主として奥秩父の清涼な水を使用し、“安心・安全”な商品となっております。

ここに自信あり

当社は、エノキタケの培養プロセスに関連する特許の申請、キノコの栽培設備に関する特許を取得するなど、生産技術や製品技術のレベルアップの向上に努めるとともに、平成8年(1996年)には「彩の国さいたま工場」の認定を受けるなど行政や地域との交流も活発に行っております。平成30年(2018年)には世界基準のASI AGAP認証を取得しております。



エノキタケの紙巻作業(上)と包装作業(下)



石川専務取締役(左)

会社概要

代表者 代表取締役社長 石川 貞夫
専務取締役 石川 浩

従業員数 58名

創業 1986年

所在地 本社:秩父市上宮地町30-20
小鹿野工場:小鹿野町下小鹿野601-1

電話 0494-75-0111(小鹿野工場)